

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

37

2010 SUMMER

特集Ⅰ **フィールドワークは無限大!**

まちづくりを担うシンクタンク 熊本大学

特集Ⅱ **織田信長の書状を一挙公開!**
中・近世日本史の真相が明らかに



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CAMPUS SCENES キャンパスの風景

医学総合研究棟前

今年3月に東病棟が完成した
附属病院のある本荘地区。
病棟と研究棟が隣接するこの場所は、
いつも多くの人が行き交い、
憩いの場となっている。

熊大通信 vol. 37

2010 SUMMER



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

【編集】 熊大通信編集委員会
矢加部 和幸／委員長・政策創造研究教育センター
溝淵 園子／文学部
河野 順子／教育学部
岸本 太樹／法学部
渋谷 秀敏／大学院自然科学研究科
田中 智之／大学院自然科学研究科
米満 孝聖／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院生命科学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西村 兆司／企画部広報戦略主幹

【制作】 株式会社カラーズプランニング

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ フィールドワークは無敵大！ まちづくりを担うシンクタンク 熊本大学
- 09 研究室探訪 世界最先端の画像診断を通して
よりよい医療人を育てる
大学院生命科学研究部 放射線診断学分野
- 11 特集Ⅱ 織田信長の書状を一挙公開！
中・近世日本史の真相が明らかに
- 13 国際交流 「できるしこ」の精神で取り組む
留学生の日常生活支援
熊本大学国際交流支援者会「Vogies」
- 15 卒業生ジャーナル
- 17 Information

表紙／「熊本駅周辺都市景観デザイン」に携わる
大学院自然科学研究科 星野准教授と学生、熊本県職員の皆さん

「特集I」

フィールドワークは

無限大!

まちづくりを担うシンクタンク 熊本大学

〈ムゲンダイ〉



熊本大学では、さまざまな学部が

県内外の都市計画立案や地域のまちづくりなど、
数多くのプロジェクトに関与しています。

地域に密着し、行政や地元の人々とスクラムを組んだ

フィールドワークの可能性は無限大!

シンクタンクの役割として活躍しているプロジェクトの中から、
建築・土木分野の活動を紹介します。





- 熊本大学の建築・土木分野の研究室が取り組んでいる熊本県内および県外のプロジェクト

[熊本県内]

黒川温泉の風景づくり
(阿蘇郡南小国町黒川温泉一帯)

白糸台地通潤用水と棚田の文化的景観を活かした地域づくり
(上益城郡山都町白糸台地一帯)

祇園橋周辺河川景観デザイン
(天草市本渡祇園橋周辺)

天草市の文化的景観を活かした地域づくり
(天草市崎津地区・大江地区・棚底地区)

伝統的景観の選定へ向けての調査
(天草市崎津地区・大江地区)

[多良木歴史回廊]構想
(球磨郡多良木町)

[県外]

曾木の滝分水路景観デザイン
(鹿児島県伊佐市)

国道34号シンボル化計画街路景観デザイン
(長崎県大村市)

昭和通線(小戸之橋)景観デザイン
(宮崎県宮崎市)

伝統的景観の選定へ向けての調査
(大分県豊後高田市)

重要伝統的建造物群保存地区の建物修理・修景事業
(佐賀県鹿島市・長崎県平戸市大島村)

※写真は、各プロジェクトで活躍する学生たちの様子。プロジェクトの実動隊として支えています



九州新幹線全線開業に向けて 新しくくまもとの「顔」の創造 「熊本駅周辺地域都市空間デザイン」



模型はすべて学生たちの手作り。材料の調達から組み立てまで、自主的に参加して作り上げた



行政・コンサルタントと協働

平成23（2011）年3月の九州新幹線全線開業を契機に、熊本駅周辺の整備事業が急ピッチで進められています。熊本大学大学院自然科学研究科の星野裕司准教授と学生たちが、「熊本駅周辺地域都市空間デザインワーキンググループ」（以下、WG）の土木デザイン担当として参加。新たに生まれ変わる熊本の玄関口の創造に取り組んでいます。県・市が核となる事務局と学識者、コンサルタントの三者協働で、プロジェクトが進められるのは全国でもまれといえます。在来線高架化が完了する同30（2018）年を目標に、街全体のトータルデザインを目指した調整が進められています。

豊かな暮らし育てる駅周辺整備

都市景観デザインの主役は「人」。そこにふらりと立ち寄った人や、住む人々が輝く街づくりが大切だと語る星野准教授。「通勤や通学などで毎日通る人々にとって心地よく、利便性の高い場所であれば観光で訪れた人にとっても同様です。例えば、街の景観の中に埋め込まれた情報をきちんと整理してサインや看板にすれば、景観も整い、



河川とともに暮らす街の都市景観デザインを提案するプロジェクトは、白川、祇園橋周辺をはじめ、県外まで多岐にわたる

暮らしやすくなります。住む人の目線でデザインすることが、観光客にとっても親切なんですよ」。

プロジェクトでは、街全体の「つながり」や人と人の「つながり」などを生かし、その地が持っているダイナミズムや息づかいをデザインに取り入れていくことが、大切だと考えられています。例えば、駅前広場には坪井川を守っていた古い石塘（いしども）や旧取水堰をできるだけ残し、くまもとの水文化に触れるスポットとして整備される予定です。「石塘は、加藤清正以降の統治者たちが、水をどう治めるか戦った軌跡を語る証人なんです。そこに石塘を残すだけでは、自己満足に過ぎない。訪れた人が実際に石塘を眺めたり、旧取水堰の間を歩いたりしながら、くまもとの治水の歴史に触れる。



熊本駅前～田崎橋間では、市電のサイドリザベーション化を実施。道路の端に寄せた軌道敷沿いに植樹し、木立ちの中を走るイメージに

子どもたちが「これは何だ?」と考えることから始まる歴史探検を楽しんでほしいですね」と星野准教授は、その目的を語ります。

また、駅前広場には白川河川敷へ続く緩やかで長いスロープが作られ、車椅子で河畔散策を楽しめるような工夫がされています。階段で降りる道をただ遠回りするだけでは楽しみがありません。スロープの折り返し地点を最も景観のいいスポットにすることで、周遊する楽しみを提案。暮らしを豊かに、誰もが心地よく過ごすという基本理念をそのままに、今、熊本駅前は大大きく変わろうとしています。

複合的視点で学生たちも成長

同プロジェクトで、学生たちも大きく成長しました。WGに参加するのは、土木担当の自然科学研究科と建築担当



「ユニバーサルデザインワークショップ」には、関係者をはじめ、県内外から多くの人々が来場した

の建築学科の学生たち。それぞれの研究室の壁を越えて議論し合い、切磋琢磨（せつさたくま）してきました。研究室の増山晃太（こうた）さんは、後輩たちを相手に議論したり、自分の意見に対して批判を受けたりと、いい刺激になったといいます。また、大学から地域へ一歩踏み出した活動が、社会生活を知る窓口となりました。「事務局やコンサルタントの皆さんが、私たちが考える突拍子もない意見を真摯（しんし）に受け止めてくださり、同じ作り手として参加させていただいたことは、とてもうれしい経験でした」。

東京からの都市景観デザインのプロジェクトと対等に議論できるところが、熊本大学の学生たちの優秀さを表していると、星野准教授もその成長に目を見張ります。「複合的な視点を持つプロジェクトを多彩な立場の人々と協働することが、学生たちを一回り大きく育て、そ

VOICE 若い力と斬新な発想が原動力に



熊本県新幹線・熊本駅周辺整備事務所 街路整備課長 丸尾 昭 さん

星野先生はじめ、皆さんには道路・河川など公共空間のアドバイザーとして、またワーキングの中心となって活躍していただいています。「木立の景」「水辺の景」など、わたしたちにはない発想がありますね。毎日通る場所だから利便性に富み、さらに熊本らしさをと、工夫しています。行政と大学、コンサルタントが情報を共有し、互いの経験を生かしながら、駅を核とした回遊空間を実現したいですね。

これから新しいニーズを掘り起こしていきません。地域に根ざしつつ、わたしとは違う視点を持って社会へ羽ばたいていってほしいですね」。

プロジェクトに携わるメンバー一人一人が、長期にわたるプロジェクトのプロセスを積み上げながら、新しいくまもとの顔を創造し続けています。



熊本駅周辺の模型を前に、都市景観デザインについて語る熊本大学大学院自然科学研究科・星野裕司准教授



ワークショップでのグループ作業。住民と学生でチームを組んで行う

川が人とまちをつなぐ 「坪井川を活かした川まちづくり」

サイエンスシヨップ型研究による 大学と地域住民の連携

熊本市の中心市街地を流れ、熊本城の内堀ともなっている坪井川。江戸時代には舟運で重要な役割を果たし、周辺で暮らす人々の生活には欠かせない存在でしたが、その役割を終えた後は、人々の生活から離れた存在となりました。

しかし近年、城下町くまもと^①の再生、坪井川周辺のまちづくりへの関心が高まり、再び注目されるようになりました。そこで熊本大学では、平成17（2005）年に「サイエンスシヨップ」を立ち上げ、「坪井川と中心市街地活性化」をテーマとした研究をスタートさせました。「サイエンスシヨップ」とは、大学が持つ知識や技術を地域に還元することで、地域が抱える問題の解決に貢献するという取り組みです。主な取り組みとして同18（2006）年までは、セミナーや研究会を重ね、大学が持つ専門知識を地域住民に伝えてきました。



船場橋上から、現場を見ながら説明

「持続可能なまちづくり」へ 地域が抱える課題の共有と 情報発信

同19（2007）年からは、住民たちが自分たちの意思により坪井川流域の管理やまちづくりに取り組んでいくようなコミュニティーの形成を目指して、「坪井川を活かした川まちづくり」をスタート。

地域住民を交えたまち歩きやワーク

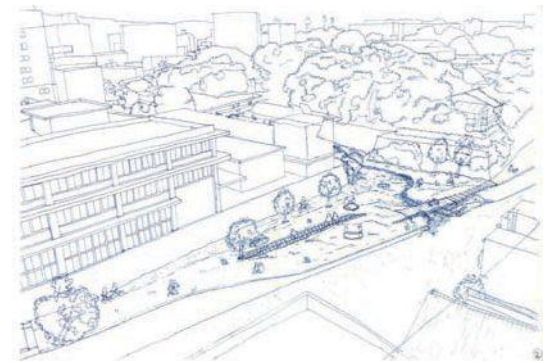




河川敷を通路にする中学生。川とまちの距離が近づいてきている

シヨップ（以下…WS）を続け、坪井川周辺の問題点や将来のビジョンを明確にしてみました。その中から、坪井川に架かる船場橋周辺の環境についての課題が共有されました。河川敷に降りる階段が急勾配で危険なことが分かったのです。

階段の改修に向けた、地域住民の意識も高まり、階段完成後の水辺はどうあるべきなのか、周辺環境のデザイン案や維持管理、使い方をテーマにWSを開き、住民と意見交換を行い情報を共有しました。そして今年3月に階段が完成。完成して終わりではなく、その後どうしていくかを地域住民自身で取り組むことが「持続可能なまちづくり」となるのです。



「坪井川を活かした川まちづくり」の中心メンバー、大学院自然科学研究科博士後期課程 岩田圭佑さんが描いたイメージ図の一つ。思いを形にして、住民と将来像を共有する

地域と真摯しんしに向き合う 「まちづくり」のフィールドは無量大

「地域住民が行政と協働して階段を造り直したことも大切だが、地域の人々が自分たちでやる気を出したという事の方が大切」と話すのは田中尚人准教授。大学が地域に関わることにより、地域の人々が、自分が住むまちについて考えるようになり、関わる人が多くなるほど、集まって話す場が必要となります。まちづくりでは、いろいろな立場の人が集う場所、情報を共有し発信できる場所をつくるのが成功のカギを握っているのです。

若い学生と接することで地域は活気を取り戻し、学生たちは地域と真摯に向き合い、地域の人々と学ぶことで、人として地域にどのように関わるかということを考えるようになります。この地域に関わったという記憶が、人をつなげ、まちづくり、というフィールドは限りなく広がっていくのです。

地域住民—行政—大学の三者連携 本来の「サイエンスシヨップ」へ

これまでは、WSの開催などに大学が積極的に住民の意見を引き出す場を設けてきました。しかし、今では桜町・新町・古町・春日町地域の住民による「まちづくり連絡協議会」なども発足し、地域住民たちが主体となったコミュニケーション成熟の一步を踏み出したのです。

地域住民や行政が、まちに対して持つ将来のビジョンは、それぞれ異なります。地域住民は、安全安心な暮らしができる環境を求め、行政は、くまもとの顔にふさわしい地域となることを求めています。それをつなげる役割を担うのが大学です。今後も「サイエンスシヨップ」として、まちとまちをつなぐ川を軸に、地域が持つ歴史や



「坪井川を活かした川まちづくり」について話す田中尚人准教授(右)と岩田圭佑さん

文化、風景を考えながら、川まちづくりを行っていきます。

VOICE “コラボ”することで生まれるもの



坪井川周辺のまちづくりに取り組む西嶋公一さん

地域住民が持つ「こうあったらいいな」というぼんやりとしたイメージを、文字にしたり、絵にしたりしながら学生さんらが整理してくれる。その一つが、船場橋から河川敷に降りる階段の改修でした。住民の思いが形になったことで、愛着の持ち方や今後の活用方法も変わってきます。“コラボ”することで、新しいものが生まれる。これからも、新たな展開につなげていきたいですね。

研究室探訪

Laboratory Exploration

放射線診断学分野

大学院生命科学研究所

「レベルの高い診療、研究を行うのはもちろんのこと、優秀な医療人を育てることで、次世代への医療貢献を目指します」。そう語る山下康行教授のもと、医療人としての心得や技術を学ぶ「放射線診断学研究室」。取材に訪れた日は、熊本大学附属病院の医師や学生、さらに他病院の医師たちによって毎週開かれる「症例検討会」の真っ最中で、熱心に意見交換がなされていました。さまざまな症例を持ち寄り、医師・学生の区別なく検討を重ねるこの会は、地域医療の質の向上を図りながら研さんを積む、貴重な学びの場となっています。

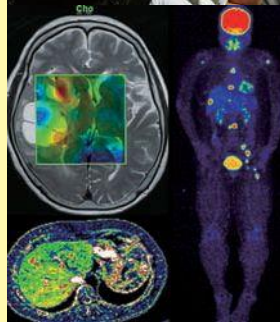
放射線診断というと、診察のみを行うイメージがありますが、それだけではありません。同大学は「IVR(アイ・ブイ・アール)※」という治療法で、世界トップレベルの症例数を誇ります。IVRとは、画像を見ながらカテーテルと呼ばれる細い管や針を用いて詰まった血管を広げたり、がんを死滅させたりすることも可能な最先端医療です。熊本大学附属病院は、IVR専門医修練施設に認定されており、学生たちは4年次でIVRを含む画像診断技術を学びます。

在学中に、内科や外科などさまざまな科で医療技術や知識を高める学生たち。放射線医学に関しては、2年次で放射線基礎医学を、その後画像診断学およびIVR、臨床形態診断学、臨床実習などを学んでいきます。医学部5年生の齋藤浩史さんは「画像診断の難しさを実感しますが、ここでしか勉強できないような先端の医療を学びたい」と語ります。

世界トップレベルの医療を提供しながら、優れた後進を育成する同研究室。離島を含む県下各病院とオンラインで結ぶことで、「遠隔画像診断」を可能にするなど、地域医療にも貢献しています。これからも、今後の医療をけん引していく志の高い医師たちを輩出していくことでしょう。

※IVR(アイ・ブイ・アール) Interventional Radiologyの略

視診、触診に次ぐ“第3の診断方法”といわれる画像診断。エックス線や超音波、CT、MRIなど、なじみのある診断方法も多くありますが、熊本大学の放射線診断学分野では、世界トップレベルの画像診断技術を学んでいます。がん治療などにも活用される放射線診断学。未来の可能性を秘めた放射線診断学分野の研究室を訪ねました。



- ◀ 「自分で考えて、工夫できる医療人に育ってほしい」と、学生にエールを贈る山下康行教授
- ↑ 研究室では、さまざまな症例を診断
- ◀ 画像を使った「症例検討会」。他にも最新の論文を読む「抄読会」や、他科とのカンファレンスを定期的に行っている
- ◀ 「PET-CT」や「3T MRI」、「64列マルチスライスCT」などの最先端の装置を多数導入して、高度な画像診断を行っている



世界最先端の画像診断を通して よりよい医療人を育てる



研究室教員全員が「日本医学放射線学会」の専門医。非常勤教員や他病院の医師も多く、十数人がここで画像診断技術を学んでいます

織田信長の書状を一挙公開！ 中・近世日本史の真相が明らかに

取材協力／熊本大学文学部附属永青文庫研究センター

丹後国一色

知行出来分

事、預置惟任

日向守、可被相談、

猶追而可申出候也、

織田信長朱印状

信長に仕え、丹後を拝領(はいりょう)した藤孝に向けて、天正9年(1581)9月4日に出した折紙朱印状。同年に行われた検地で得られた増分を明智光秀と相談し、把握するように命じている。「天下布武」の朱印には、信長の天下統一を目指す思いが込められている

信長文書が物語る真実 近世細川家初代・藤孝は 信長の権力の中核だった！

細川家は、室町時代からおよそ700年もの歴史を刻む大名家で、近世細川家三代当主・細川忠利の時代に、肥後熊本藩の藩主として入国。以降廃藩置県に至るまで治めてきました。連綿と受け継がれてきた総数7万点にも及ぶ細川家伝来の古文書は、現在、公益財団法人「永青文庫」が所蔵。熊本大学は寄託を受け、その研究の核となる「永青文庫研究センター」を開設し、研究を続けています。

現存する信長の発給文書は現物約800点、写しを含めると1200点ほどにもなります。その中でも、近世細川家初代・藤孝に宛てた49通は、同一人物宛としては最も多いものです。信長が文書を出した相手としては、おそらく明智光秀や羽柴秀吉が最も多かったはずですが、彼らの家は没落して文書

公益財団法人「永青文庫」が所有する史資料の中で、かねてより存在が知られていた織田信長発給の古文書原本全59点が、永青文庫叢書「細川家文書 中世編」(吉川弘文館)で初めて公開されました。当時信長が細川藤孝を腹心として重用した事実や、天下統一を目指す貴重な過程を語る古文書について、熊本大学文学部附属「永青文庫研究センター」稲葉継陽教授のお話を紹介します。

は散逸してしまいました。室町時代から幕末まで家を守り続け、明治以降も史資料を管理・伝存させた大名家は、細川家しかありません。そこに大きな価値があります。

この度公開した文書群を読み解いていくと、信長の権力の中核を成す部分に藤孝が存在し続けていたことが分かり、信長と細川家との深い繋がりが浮き彫りにされてきました。

藤孝は、室町幕府十三代・十五代将軍に仕えた直臣(じきしん)であり、信長と足利義昭の間を取り持ったキーマンです。信長が義昭を第十五代将軍に擁して京都へ上洛した時から信長の時代が始まりました。やがて義昭は信長軍に包囲され、室町幕府は崩壊。藤孝は、将軍直臣でありながらも機を逸することなく信長側に付くという離れ業をやつてのけます。

丹後時代の藤孝は、領国支配や軍事の面で明智光秀に監督される立場にありました。「織田信長朱印状」天正9年9月4日「写真参照」には、丹後の支配について「日向守」＝光秀に

九月四日 信長

長岡兵部大輔（藤孝）殿

指示を仰ぐように記されており、当時、信長の家臣の中で、光秀が畿内およびその周辺における大きな権限を行使していたことを示しています。信長の信頼も厚く、家臣の監督さえ任されていた光秀が、後になぜ主君殺害に動いたのか？こうした古文書の数々は、「本能寺の変」を研究する上でも大変重要な史料です。

一般に信長に愚弄（ぐろう）された光秀が腹に据えかねて反旗を翻したと考えられているようですが、信長にこれほどまでに引き立てられていた事実を見ると疑問が残ります。

また、藤孝は「本能寺の変」からわずか6日後に光秀から届いた書状に記された出兵要請に応じることなく、息子・忠興ともども信長の喪に服しました。光秀といえは、忠興の妻・ガラシヤの父。両家は縁戚関係にあり、かつ、光秀が藤孝に対して上級の権限を行使していたにも関わらず、藤孝は光秀に従わず、やがて中国へ出兵していた秀吉が畿内へと戻ると、藤孝は出家して幽斎（ゆうさい）と名乗り、秀吉の側近として活動しています。信長初期と「本能寺の変」に際しての二つの藤孝

の判断が、廃藩置県まで続く細川家の安泰の礎となりました。

類まれな武人であり 当代随一の文化人 藤孝の真の人間像を追究

さまざまな史料をひも解いていくと、藤孝の人間像が浮かび上がってきます。中でも信長や秀吉を選んだその類まれな政治的判断力は特筆すべきもので、通常では極めて困難なイレギュラーな判断を2回も行いました。藤孝と信長は同じ年齢で、当時は未知数だった信長の権力を選んだ先見の明は見事なものです。

また、ぬかりない情報収集力を築いたのも藤孝の功績の一つ。当時、あらゆる情報に精通していたのは山伏でした。全国を自由に動きまわることができ、棟別銭（むなべつせん）という租税を集めて回る山伏は、どこに誰が住んでいるかまで分かるほど、詳細な情報を有していました。その山伏などをも利用し、情報収集に力を注いだのです。

藤孝の激しい一面を見ることができるのは、信長の天下統一を阻む「向」探勢力との凄惨な戦いを示す古文書です。信長が「大坂の探勢力は根切り（皆殺し）しかない」とつづった文書や、藤孝が知人に宛てて送った「探勢の首のリストなど戦功に関する生々しい文書が残っています。

「探勢には本願寺の門徒だけではなく、広く一般の農民も加わっていました。長い歴史の中で、これほど多くの民衆が殺害された時代は、ほかにありません。多くの武士たちも命を落としました。この凄惨な歴史があったからこそ、後に江戸時代の平和が長期継続したといえるでしょう。藤孝は信長のもと、生きるか死ぬかという最前線で戦い続けていたのです。

室町時代から続いた動乱の時代、このように藤孝は武人として戦場に立ちながら、その一方で文学や芸能を極めた超一流の文化人もありました。歌道の奥儀「古今伝授」を許された当代随一の歌人であり、茶道や能への造詣も深く、中世の文学・芸能を集約して江戸期へとつないだ藤孝の功績を踏まえると、武人として文化人として超一流の業績を両立させた、日本史上最も注目されるべき人物の一人ではないかと思えます。

史資料を地元研究機関へ寄託 熊本大学が担う 中・近世日本史の研究解明

有職故実を重んじた細川家の武器は「文」

であり、「文」とともに築いた人脈と自らの政治手腕をもって「武」を制してきたともいえます。そうして下剋上の戦国時代を乗り越え、明治4年に廃藩置県を迎えるまで生き残ってきたのです。

公益財団法人「永青文庫」が所有する史料の最も素晴らしい点は、戦国時代から廃藩置県まで、他の大名家では見ることのできない完全な史料がそろっていることです。

また、これらの史料はよその施設ではなく、地元の研究機関に寄託され、地元で研究されることこそ大変意義深いものです。熊本大学と細川家の信頼関係があったからこそ実現できたことだと思えます。

当センターでは、高度な学術研究活動を行う一方で、さまざまな文化事業を推進し、公益財団法人「永青文庫」の知的資源を地域社会に還元。細川家の史料から中・近世日本史の真相をひも解いて、発信していきます。



熊本大学文学部附属「永青文庫研究センター」稲葉継陽教授。
藩政の実態や幕藩関係を明らかにすることで、日本の歴史を明らかにできると語る
[永青文庫研究センター]
<http://www.let.kumamoto-u.ac.jp/eisei/>



「できるじい」の精神で取り組む 留学生の日常生活支援

熊本大学では、留学生の受け入れ数1000人を目指し、国際化に向けた取り組みを行っています。その大学の活動を支援すべく、昨年立ち上げられたのが、熊本大学国際交流支援者会「Vogies（ボギーズ）」※。留学生の日常生活をサポートをする団体です。

※Vogies（ボギーズ）Volunteer Group for International Exchange Support (for Kumamoto University) S略



昨年夏の「サマープログラム」日本文化体験では、着物の着付けや和菓子作成体験をサポート

留学生受け入れ1000人を目指して

平成20年、文部科学省は日本を世界により開かれた国にするため、世界の間のヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する「グローバル戦略」を展開する施策を掲げました。その一環として、「留学生30万人計画」を策定。2020年をめどに、国内で30万人の留学生受け入れを目指しています。熊本大学でも、約280人の留学生を1000人まで拡大することを目標に、熊本大学国際化推進機構を設けると同時に、国際交流の支援や語学サポートをする

「国際化推進センター」を設置し、各学部や大学院、研究施設などと協働して、留学生受け入れの推進・支援を行っています。

国際化戦略を推進するうえで大切なのが、留学生の日常生活に関するサポートです。留学生が増え続けた場合、手が回らなくなることは目に見えています。そこで、熊大独自にサポート組織を設ける必要があると昨年創設されたのが、熊本大学国際交流支援者会「Vogies」です。

それぞれのほんの少しの協力が 留学生を支える大きな力に

「Vogies」の会長は、崎元達郎前学長。現在の会員は102人です。留学を経験し、海外での生活を充分に知っている教員をはじめ、大学職員、一般の人々もメンバーに加わっています。

「できるときに、できることを、できるしこ（熊本弁で“できる分だけ”）」の精神で、それぞれの会員が重荷に感じ



「Vogies」会長、崎元達郎前熊本大学長。アメリカ留学時代、ボランティア組織にサポートしてもらった。その恩返しとして、精力的に取り組んでいる

ることなく、協力できる体制を作っています。昨年は、国際課が毎年行っている「サマープログラム」をサポート。アジア諸国の協定校に在学する学部学生約30名を熊大に招き、留学生と会員が交流し、日本の良さや熊本の良さを体感してもらう「ホームビジット」を行いました。会員の上村昭人さんは、韓国の学生3人を受け入れ、普通の日本の休日を経験してもらおうと、構えることなく出迎えました。中学生の息子さんが持っていた韓国の漫画の話で盛り上がり、昭人さんがソウルオリンピックの直前に韓国を訪れたときの写真を見ながら当時の思い出話をしたり、一緒にスーパーに買い物に行ったり。3人の学生とは一年たった今でも、電子メールでの交流があるそうです。

International exchange Report

国際交流レポート／平成22年3月～22年5月

3月22日 / 本学大学院社会文化科学研究科、政策創造研究教育センターと中国・復旦大学国際関係公共事務学院との共催で「日中政策研究フォーラム」を開催

幸山熊本市長を招いて、日中6名の教員が「持続可能な社会」を主題に研究報告をしました。

22日 / 復旦大学国際関係公共事務学院生日本短期研修を実施(27日まで)

中国から16名の学生が参加し、日本の行政や、環境問題、福祉への取り組みを学ぶとともに、熊本県庁など県内関連機関を訪問しました。

4月6日 / 国際課ミニシンポジウム「留学のススム」を開催

8日 / Academia Sinica-Kumamoto University Joint Conference on Organogenesisを開催(9日まで)

G-COEプログラム「細胞系譜制御研究の国際的人財育成ユニット」の国際交流事業の一端として、台湾の中央研究院(英称: Academia Sinica)で開催されました。



14日 / 中国・浙江大学医学院訪問団が来学

教員7名、大学院生14名が来学し、本学医学部附属病院山崎記念館でポスター討論や医学部の関連施設見学を行いました。



21日 / 「第11回日独産婦人科サテライトシンポジウム」を開催

平成4年より隔年毎に開催されており、今年度は熊本大学医学部附属病院山崎記念館で開催されました。

21日 / 中国・東北大学一行が来学

5月7日 / 中国・吉林化工学院の高維平院長来学

11日 / 米国・テキサス大学より研究員を招き法学部GP主催による学部生向けワークショップを開催

テキサス大学のSteven Sano氏が「サンアントニオのコミュニティ活動」をテーマに講演会を開催しました。

12日 / 本学発生医学研究所でミニシンポジウムを開催

G-COEプログラム主催による「モデル生物を用いた神経機能の解析とその応用の可能性」と題したミニシンポジウムが開催され、国内外から60名が参加しました。

13日 / JICA・地下水研修コースのスーダン人技術者一行が来学

本学大学院自然科学研究科で地下水に関する講義を受講するとともに県内の地下水関連施設を見学しました。



24日 / トルコ・エーゲ大学で調印式を挙行

本学学長らがエーゲ大学を訪問し、大学間学術・学生交流協定更新の調印式を行いました。



25日 / エーゲ大学で「第4回学生国際会議(ICAST Izmir)」を開催(26日まで)

「里親制度」と会員1000人の実現を目指して

「Vogies」は、留学生が何でも相談できる日本の親代わりになる家庭を作ろうと、留学生一人に対して一つのファミリーをマッチングする「里親制度」の実現に向けて取り組んでいます。わたしたちでも、医療制度や税金のことなど、分からなくて困ることが多々あります。生活習慣や制度の異なる社会で育った留学生にとってはなおさらです。そんな時、気軽に相談できる家族がいれば、安心して暮らせるのです。

留学生が快適に暮らせるグローバルな



6月上旬に行われた「Vogies」の総会。今年度の取り組みについても説明が行われ決起した

「Vogies」の会員大募集!!
みなさんの「できるしごと」をお待ちしています!
お申し込み・お問い合わせは
t-sakimoto@vogies.ggl.kumamoto-u.ac.jp まで

熊本であるために、「Vogies」はこれから1000人の留学生に対して1000人の会員を取り組んでいきます。

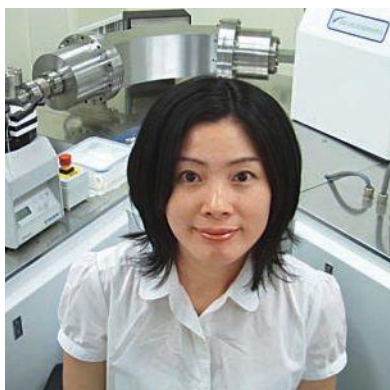


上) 上村さん一家が、昨年の「ホームビジット」で受け入れた3人の韓国人留学生。リビングのピアノを弾いて、楽しませてくれた 中) 上村さんが韓国を訪れソウルオリンピックの会場設置風景を撮影した写真に食い入る3人 下) 上村昭人さん・幸美さん夫妻と娘の祐理子さん。毎年ホームステイなどの受け入れも行っている上村一家。「どの国の人でもコーラを用意しておけば間違いないですよ」

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して
精勵するその姿をご紹介します。



福山 繭子 Mayuko FUKUYAMA



中央研究院 地球科学研究所（台湾） 勤務
理学部地球科学科・平成11年度卒／大学院自然科学研究科環境共生科学専攻 博士後期課程・平成16年度修了

つくば市の産業技術総合研究所で3年間勤務した後、台湾にある中央研究院へポスドクとして移り、今年で3年目を迎えました。この間、地球化学へ専門分野を広げ、研究を続けています。在学していた9年間、熊本の美しい豊かな自然の中で、多くの方に見守られ、仲間たちと気ままに過ごした日々は、かけがえのない時間でした。

海外に住んでいると、文化や考え方の違いにぶつかったり、乗り越えないといけないことにも直面しますが、それが自分自身に変化を与えてくれて、成長の糧となっているように思います。これも学生時代の人のつながりや経験が土台となり、導いてくれたものだと感じています。



城戸 大輔 Daisuke KIDO



ブラザー工業株式会社 アプリケーション開発部（愛知） 勤務
工学部電気システム工学科・平成15年度卒／大学院自然科学研究科電気システム専攻博士前期課程・平成17年度修了

私は現在ソフトウェアエンジニアとして、インドとのやりとりを行う仕事をしています。学生時代は、ESSという英会話サークルに入っていました。英語ができればカッコいいだろうと浅はかな理由で続けていたのですが、そこで学んだ英語と人間関係は今でも宝物です。人間関係で行き詰まって仕事を辞めてしまう人は多いといえますから、バイトやサークルで人付き合いを学んでおくとよいと思います。また、長期で海外に行くなど、学生のうちにしかできないことをやっておいてください。

就職活動は、夢を叶える最後のチャンスです。どんな大人になりたいかをよく考えてみてください。充実した学生生活になることを応援しています。



松尾 純子 Junko MATSUO



株式会社 新日本科学（鹿児島） 勤務
薬学部薬科学科・平成12年度卒／大学院薬学研究科博士前期課程・平成14年度修了

私は現在、医薬品開発の受託研究機関に勤務しています。在学中から薬づくりに参加したいと思っていたので、仕事は楽しいです。培養細胞などを用い、「パッチクランプ」という手法で薬物の副作用を評価するのですが、リアルタイムで細胞機能への影響を見られるのが醍醐味（だいごみ）ですね。また、自分の研究を発表するチャンスもあり、モチベーションにつながっています。

今の仕事は大学の専攻とは違いますが、在学中に学んだ知識や経験が役立つことが意外に多く、何にでも興味を持って取り組むことの大切さを痛感しています。皆さんも今学べることを精一杯学んでください。人生何が役に立つかすぐには分からないものです。



小田 真莉絵 Marie ODA

長洲町立腹赤小学校（熊本） 勤務
教育学部中学校教員養成課程理科専攻・平成21年度卒



私は現在、熊本県内の小学校に勤めています。社会人としてスタートをきって数カ月、慣れない仕事に苦戦しながらも、子どもたちと共に充実した日々を過ごしています。学生時代は、同じ学科の仲間たちと共に多くのことを学びました。理科の実験、教育実習、卒業研究、卒業旅行。どれも、私にとってかけがえのない思い出です。教員採用試験も、お互いに励まし合える仲間がいたからこそ頑張ることができました。そんな仲間との出会いが、卒業した今でも私の心の支えになっています。多くの人々に支えられ過ごした4年間を思い返し、これからも感謝の気持ちを第一に前進していきたいと思っています。



嘉村 浩晃 Hiroaki KAMURA

株式会社 ザンシンコンサルティング（東京） 経営
法学部法学科・平成7年度卒



私は、信販会社で債権管理業務と財務業務に従事した後、メガバンク系の総合研究所で中小企業診断士として経営コンサルティング業務を行ってききましたが、このたび、事業再生と企業間業務提携の支援を主な業務内容とする経営コンサルティング会社を設立しました。激動する世界経済の中で、企業が勝ち残り成長し続けるために、われわれは企業の各種経営機能を代行しながら共に闘っています。大学時代に培った問題分析能力と論理的思考能力は、会社を経営し、コンサルティング業務を行う上で非常に役立っています。また、熊大時代の友人たちには現在も支えられ、互いに良い刺激を与え合っていることに大変感謝しています。



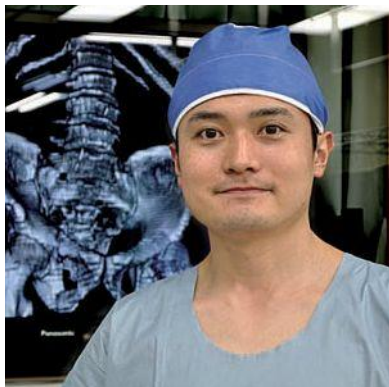
久保 綾香 Ayaka KUBO

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 勤務
文学部コミュニケーション情報学科・平成20年度卒



現在私は、病院の経営マネジメントスタッフとして、臨床現場で働く医師や看護師の働きやすい環境づくりに励んでいます。院内または他医療機関と診療情報を比較し、当院の位置・状況を現場に報告するなど、改善につながるデータ作成を目指しています。

社会人になってあらためて思うのが、大学生活はかけがえのない時間だったということ。経験した一つ一つが、今の自分につながっています。例えば、仲間と協力してイベントをつくりあげる難しさを知ったことが、多職種で協力しなければ成り立たない今の仕事に役立っています。自分の経験値を存分に上げられる大学で、皆さんもたくさんの経験を積み、学生生活を楽しんでください。



大島 徹 Toru OSHIMA

秋田大学大学院医学系研究科法医学講座 勤務
医学部医学科・平成11年度卒



入学当時は、臨床医になりたくて医学部に入学しました。しかし、在学中に法医学と出会い、悩んだ末に臨床を経て、法医学を専攻することになりました。母校とはありがたいもので、学生時代からお世話になっていた先生方、同級生や仲間たちに支えられて研さんを積むことができました。これも熊本での自由な大学時代があったからこそだと思います。

現在は学舎を離れ、秋田大学で法医学をしています。解剖率の高い秋田県で、放射線科と協力しながら、死後画像診断の解析を行っています。時折、熊本の焼酎や馬肉料理が恋しくなりますが、熊本で学んだことを少しでも社会に還元できればと頑張っております。

オニヒトデ駆除作業に本学ダイビング部が参加



車で約3時間、天草市の「牛深海中公園」で行われているオニヒトデ駆除作業に、本学ダイビング部が参加しています。オニヒトデの大量発生は、生態系や漁業に影響を与えます。昨夏以降、同沖ではオニヒトデによって海中のサンゴが食い荒らされる被害が確認されており、ダイビング部員は、地元ダイバーと一緒に駆除作業を行っています。今後は多くの人に海の環境について考えてもらうため、サンゴやオニヒトデの写真展を開く予定です。

留学生のための「熊本城ボランティアガイド養成講座」開講



国際課が事務局を務める「熊本留学生交流推進会議」では、県内の大学・高専に在籍する外国人留学生を対象とした、熊本城の観光ボランティアガイド養成講座を今年度から開講しました。この講座は、留学生が熊本を訪れる訪問者(各大学・高専関係者ら)に、熊本城とその周辺を母国語や日本語でガイドできるようになってもらうのが狙いです。6月から12月にかけて開催される全8回の講座では、お城についての勉強や現地研修などが行われます。

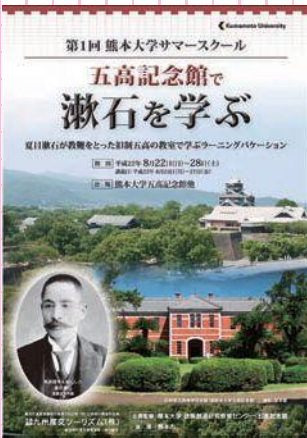
現代アート作家 鈴木 淳氏の《いないない、ばああ》展 五高記念館で



理学部生物学科を卒業後、1995年から現代アート作家として活躍する鈴木 淳さんの作品展が五高記念館で開かれています。旧制五高時代の教室をそのままに再現した復原教室を会場に、表現方法にとらわれない多種多様な同氏の映像作品を展示。熊本市現代美術館で開かれている、小泉八雲生誕160周年記念「へるんさんの秘めごと」展の一環で、9月5日(日)まで開催しています。

【問い合わせ】
五高記念館 Tel.096-342-2050

滞在型公開講座「熊本大学サマースクール」を企画



漱石が五高教員時代に宿泊した玉名市天水町の「前田家別邸」

本学では、今年度から「熊本大学サマースクール」を開講します。関東・関西地区で参加者を募り、本学で1週間の日程で学んでもらう滞在型の公開講座です。地元旅行会社との共同実施企画で、サマースクールを通して熊本や本学に親しみを持ってもらうのが目的です。第1回の今年は、「五高記念館で漱石を学ぶ」がテーマ。五高記念館で本学研究者の講義を聴講したり、漱石ゆかりの地を訪れたりします。

【問い合わせ】

五高記念館 Tel.096-342-2050

九州産交ツーリズム(株)法人団体営業課

熊本大学サマースクール事務局 Tel.096-325-8240

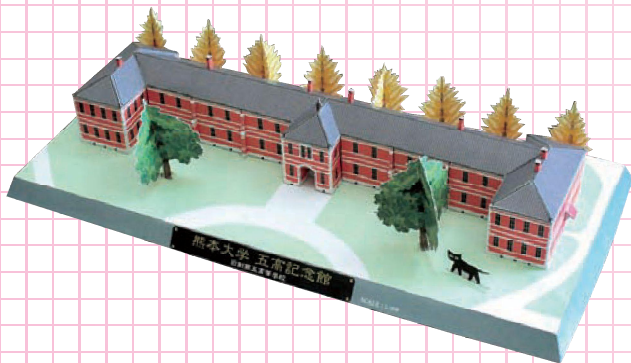
黒髪南地区共用棟を全面改修



黒髪キャンパス(黒髪南地区)「共用棟黒髪7」を大幅にリニューアル。大正時代に建てられた歴史ある建物を耐震補強するとともに、外壁や建物内部に施された古い装飾を残しながら全面改修を行いました。

1階に学生・教職員の交流・憩いの場として学生ラウンジ(利用可能時間7:00~19:00)、2階には県内の大学・高専が協力して教育の向上に取り組む「高等教育コンソーシアム熊本」の事務室を設置しました。

「五高記念館」のペーパークラフトが好評



本学では平成18年8月からロゴマークを付したオリジナルグッズを販売していますが、このほどその商標収益を利用して、黒髪キャンパス(黒髪北地区)内に建つ「五高記念館(旧制第五高等学校本館)」のペーパークラフトを作りました。

「五高記念館」の建物は、明治22(1889)年に「第五高等中学校」の本館として建てられました。その後、明治27(1894)年「第五高等学校」と改称。昭和44(1969)年には国の重要文化財に指定され、本学のシンボルとして親しまれています。

ペーパークラフトの完成品は実物建造物の350分の1の縮尺で、可能な限り建物の外観を模しています。キットには、記念館前で見かけるアイドル猫「三四郎」の姿も。今後、本誌アンケート懸賞のほか、大学主催行事などで活用する予定です。

「みなまた環境塾」第三期生募集



「みなまた環境塾」の第三期養成者を募集します。水俣市で資源循環型社会の構築に貢献できる人材、ならびに社会システム・ライフスタイルを含めた環境保全の担い手を育成することを目的として、平成19年度より熊本大学と水俣市が協働で実施しているものです。

募集期間／7月1日(木)～8月12日(木)

養成期間／平成22年10月～平成24年3月(1年半)

講義場所／みなまた環境テクノセンター

※受講料不要

※講義内容などの詳細は、<http://ecomot.org/>(みなまた環境塾)

【問い合わせ】

自然科学系事務部研究支援担当 前田

Tel.096-342-3519

みなまた環境マイスター養成プログラム

「みなまた環境塾」では、一般の方などを対象に「マイスター養成プログラム」を実施しています。

みなまた環境塾 第10回イブニングセミナー

年3回のペースで実施しているイブニングセミナーです。

日 時／7月26日(月)18:00～20:00

場 所／みなまた環境テクノセンター

講 師／李 泰綺

(韓国釜山大学工学部副教授)

演 題／韓国における緑色成長と微生物を使用したエネルギー生産

対 象／一般、環境・リサイクル系企業・団体、行政関係

※要事前申込(当日申込可)・参加費不要

ミニみなまた環境塾 ～サイエンス&エコサマースクール～

地域とのつながりを深めることを目的とし、「みなまた環境塾」の修了生・受講生が講師となって、地域の小中学生と実験などを行います。

日 時／8月24日(火)9:00～15:30

場 所／みなまた環境テクノセンター

講 師／エコロマスター、第二期受講生、みなまた環境塾講師

対 象／水俣市周辺地域小学校高学年～中学生

定 員／20名程度

※参加費200円(教材費・保険料)昼食あり

みなまた環境塾第5回シンポジウム ～水俣市を知ろう～

県内在住の外国人へ、「みなまた環境塾」と環境モデル都市・水俣の取り組みを紹介。水俣市内施設見学や交流会などを行います。

日 時／9月2日(木)～3日(金)

(1泊2日)

対 象／熊本県内の大学・短大・専門学校
の留学生、海外駐在員

定 員／30名程度

※要事前申込・参加費不要・食事代のみ実費

第3回熊本大学X-Earthセンター 公開フォーラム ～エックス線CTでみる地球とヒトの歴史～

化石観察体験および公開フォーラム、エックス線CTの考古学への適用に関する講演、小学生～高校生によるエックス線CTを使った研究発表会などを行います。

日 時／7月31日(土)13:00～16:00

場 所／工学部百周年記念館

対 象／どなたでも可

※事前申込不要・参加費不要

※詳しくはWeb(「X-Earthセンター」で検索)をご覧ください

【問い合わせ】

工学部社会環境工学科 佐藤

Tel&Fax.096-342-3694

E-mail: asato@kumamoto-u.ac.jp

第7回夏休み自由研究相談教室



【問い合わせ】

教育学部理科教育学科 川越

Tel.096-342-2539

自由研究を行うにあたっては、研究の方法や進め方などで難しさを感じることも多いものです。小学生、中学生の皆さん、また先生方からの相談にも応じます。

日 時／7月31日(土)10:00～15:00

場 所／教育学部理科棟1階102教室

対 象／小学生(保護者同伴)、中学生、小・中学校教員
(定員30名)

相談可能な分野／物理、化学、動物、植物、火山、岩石、鉱物、化石、環境問題など理科全般

申込方法／相談内容(具体的に)、氏名、住所、電話番号、学年をFAX、郵便あるいは電子メールで下記までお知らせください

申込先／〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1

熊本大学教育学部図書室

Fax.096-342-2539

E-mail: 2010rika@educ.kumamoto-u.ac.jp

締 切／7月26日(月)必着

※参加費不要

※自家用車で来場予定の方は申込時にお知らせください

※詳しくは大学ホームページをご覧ください

薬用植物園薬用植物観察会

薬学部薬用植物園の季節の花々、薬用植物を説明します。植物に触れて心を和ませ、薬用植物を理解し利用することや、観察会を通して人とのつながりを持つことが目的です。お弁当を持ってきて園内で食べるのも楽しいですよ。

日時／8月7日(土)11:00～13:00

薬用植物園管理棟前集合

対象／一般、学生、教職員

※事前申込不要・参加費100円

【問い合わせ】

薬学部薬用資源エコフロンティアセンター
(薬用植物園) 矢原
Tel.096-371-4381
E-mail:yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp

ラフカディオ・ハーン来日
120年・生誕160年
記念講演会・シンポジウム

日本文化を西洋に紹介したハーンの生涯と作品を顕彰する催しを開催します。

基調講演／「混淆日本文化は是か非か
～ハーンの周辺文化体験～」

講師／平川 祐弘(東京大学名誉教授)

～マンドリンクラブ演奏～

シンポジウム／「ハーン来日120年
～ハーンの魅力とその現代性～」

日時／9月26日(日)13:30～17:00

場所／工学部百周年記念館

【問い合わせ】

附属図書館 学術資料調査研究推進室
Tel.096-342-2305

第9回薬用植物を知ろう in熊本(阿蘇)

内容／9月11日(土) 10:00～12:00 薬用植物園観察会
13:00～16:00 講演会

「阿蘇の大陸遺存種ハルリンドウ」南 基泰(中部大学教授)
「北海道の薬用・有用植物」吉田 尚利(北海道医療大学)
9月12日(日) 9:00 阿蘇郡高森町 休暇村南阿蘇集合
9:30～15:30 休暇村南阿蘇～高森温泉～肩山下～杉林～下り別荘へ
～徳丸漬物店横～昼食～休暇村～野草園～ビジターセンター(総評・解散)

対象／一般、学生、学童、教職員

申込方法／参加日、氏名、住所、電子メールアドレス、電話番号を電子メールまたは往復ハガキで下記までお知らせください

申込先／〒862-0973 熊本市大江本町5-1

熊本大学薬学部附属薬用資源エコフロンティアセンター
E-mail:yaharas1@gpo.kumamoto-u.ac.jp

※資料代11日500円、12日1,000円(どちらも学生は無料)

※昼食は各自ご準備ください

【問い合わせ】

薬学部薬用資源エコフロンティアセンター(薬用植物園) 矢原
Tel.096-371-4381



アキチョウジの花

夏休みの自由研究に関する技術相談会



中学生を対象とした、夏休みの自由研究に関する相談会です。テーマの選び方、まとめ方、実験の仕方について相談に応じます。当日は、現役の理系大学院生による進路相談コーナーや懇談会も同時開設。

日時／8月1日(日)9:00～17:00

場所／工学部百周年記念館

対象／中学生(進路相談は保護者参加可)

※要事前申込・参加費不要

※詳しくは大学ホームページをご覧ください

【問い合わせ】

技術相談会担当 岩田(9:00～17:00)
Tel.096-342-3623



数字でわかる 熊本大学 #01

国立大学別インターンシップ学生派遣数ランキング

熊本大学が第1位!

熊本大学がインターンシップに強い理由とは?

2009年度国立大学別
インターンシップ学生派遣数

- 1 熊本大学(562名)
- 2 首都大学東京(540名)
- 3 北海道大学(447名)
- 4 豊橋技術科学大学(411名)
- 5 長岡技術科学大学(367名)

JRCM産学金連携センター調べ
(2010年3月29日付)

特定非営利活動法人「JRCM産学金連携センター」が発表した、最新の「2009年度インターンシップ実施状況」によると、本学のインターンシップ参加者数は、国立大学としては全国ランキング第1位という結果になりました。

この結果をもたらした大きな要因は、制度化された独自のインターンシップの仕組みときめ細かい学生への支援です。一般的なインターンシップ制度は、大学が履修科目の一つとして開設し、履修した学生に単位を認定するといったもの。それに加えて本学では、企業が募集する公募型のインターンシップについても、学生が申請し一定の基準を満たせば単位として認定する制度があります。2005年より設置されているサービスセクション「キャリア支援課」は、就職活動の支援だけでなく、学生のキャリア教育も一部担っており、民間企業でのビジネス経験者をスタッフに交え、良き相談役としてバックアップを行っています。また、本学では「高等教育コンソーシアム熊本」のインターンシップ事業にも積極的にに関わり、地元企業と協力して支援プログラムを推進しています。就業を体験できる企業が増えることで選択肢も広がり、学生の視野も広がっているといえるでしょう。

大学だけでなく、地域と連携して取り組む学生支援。学生自身が「いま」を見つめ、「これからの生き方」を考える大きなきっかけとして、より活用されることが期待されます。

熊本大学オープンキャンパス

平成22年8月10日(火)開催 **当日自由参加**

オープンキャンパスは、各学部の説明や模擬講義・研究室等の公開など見どころ満載です。

受験勉強・大学生活のアドバイス、サークルの紹介などについて先輩から直接話を聞くことができます。また、国指定重要文化財の「五高記念館」も公開しています。



黒髪キャンパス

■ 文学部

開催時間 / 13:00~16:30

集合時間 / 12:50まで

集合場所 / 文・法学部棟 A1、A2、A3、B1教室

説明会場 / 文・法学部棟 A1、A2、A3、B1教室

■ 教育学部

開催時間 / 午前の部10:00~12:10 午後の部13:10~14:55

受付時間 / 午前の部9:15~9:45 午後の部12:15~12:45

集合場所 / 教育学部

説明会場 / 教育学部 講義室 ほか

※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください

※満席になり次第、受付を終了しますのでご了承ください

■ 法学部

開催時間 / 10:00~12:00

集合時間 / 9:50まで

集合場所 / 文・法学部 A1教室

説明会場 / 文・法学部 A1教室

※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください

※満席になり次第、受付を終了しますのでご了承ください

■ 理学部

開催時間 / 10:00~15:00

集合時間 / 午前の部9:50まで 午後の部12:50まで

集合場所 / 理学部 玄関前

説明会場 / 理学部 D201教室・C122教室・C226教室・研究室 ほか

■ 工学部

開催時間 / 9:30~15:10

受付時間 / 午前の部9:00~ 午後の部13:00~

集合場所 / 工学部 2号館 1階ロビー

説明会場 / 工学部 2号館教室 ほか

本荘・九品寺キャンパス

■ 医学部医学科

開催時間 / 13:00~15:30

集合時間 / 12:50まで

集合場所 / 医学部 医学教育図書棟 第一講義室

説明会場 / 医学部 医学教育図書棟 第一講義室

■ 医学部保健学科

開催時間 / 午前の部10:00~12:10 午後の部13:30~15:40

受付時間 / 午前の部9:30~9:50 午後の部13:00~13:20

集合場所 / 保健学科 玄関ロビー

説明会場 / 保健学科 C503講義室・A307講義室・A312講義室

※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください

大江キャンパス

■ 薬学部

開催時間 / 13:00~15:30

受付時間 / 12:00~12:45

集合場所 / 薬学部 正面玄関

説明会場 / 薬学部 多目的ホール ほか

※2年生以上参加。1年生の参加はご遠慮ください

※オープンキャンパスとは別に「薬学部説明会」を8月7日(土)に開催します。内容はほぼ同一ですので、1年生および近郊の高校生は、オープンキャンパスではなく「薬学部説明会」にご参加ください

同時開催

九州地区国立大学進学説明会

10:00~16:00

場所 / 全学教育棟 1階 第一会議室

地元熊本に居ながら、他県の各国立大学のさまざまな入試情報を得るチャンスです

個別相談ブース

各国立大学の入試関係教職員が、参加者からの各種相談・質問などにお答えします

資料配布コーナー

各大学・学部等の概要、資料などのパンフレット類を自由に持ち帰ることができます

参加大学(予定)

福岡教育大学・九州大学・九州工業大学・佐賀大学・長崎大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・鹿屋体育大学・琉球大学・山口大学・熊本大学 (以上12大学)

【問い合わせ】

学務部入試課 Tel.096-342-2146 Fax.096-345-1954

E-mail: nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp URL <http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます

No.10(平成22年3月1日～5月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様からご寄附をいただき、平成22年5月31日現在、その寄附総額は約4億428万円となっております。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成22年3月1日から5月31日までの間に入金を確認させていただきました個人187名、7法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感

謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【1億1千万円】	一般財団法人化学及血清療法研究所(11,500)	【120万円】	兼重 修		
【18万円】	村上洋一郎(20)	【10万円】	池田 昭二	吉玉國二郎(20)	
【5万円】	内野 明德(10)				
【5万円未満】	一木 政彦	黒澤 和(10)	杉本 紘一	田原 芳馬	中村 正人(6)
	日吉 誠一	西塔 祐一郎	百崎 謙	百崎 末雄	諸隈 慎一
	笠 美雄	村上 健太郎			

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

浅山 滉[2]	阿部 壹與子[2]	荒木 忍[2]	池上 知顯[3]	出井 昇	今井 博昭[3]	今江 正知[2]	岩崎 修
上田 京二[2]	内村 哲也[2]	衛藤 光明[3]	大津 圭介	尾方 明	岡山 洋二	荻迫 光洋	小野 省五
片江 明利	神澤 直美[2]	北本 忠[3]	網脇 晴一郎[2]	草野 龍二[3]	黒田 守雄	古閑 孝之	小林 新八郎
迫 健市[2]	定永 元明	佐藤 立行	紫藤 忠博	柴山 佳夫[3]	島田 恵[2]	主藤 哲之	濟川 誠
瀬戸 致行	相馬 和夫	副島 修	高濱 り子	瀧井 一信[3]	武内 令典	武宮 利徳	立神 高明
立神 千種[2]	田中 紀美子[2]	種子田 政人	田畑 英一	田村 奈緒美	土井 清磨	中川 昭一[2]	長澤 元之
永田 達也[3]	中村 功[2]	仲本 晴男	芳賀 義雄	服部 新三郎[3]	福島 直澄	藤井 俊矣[2]	藤本 孝一
帆秋 孝幸	堀 天生[2]	前川 嘉洋	牧野 耿介[2]	益田 正文	杏尾 修一	松岡 正浩	松山 公士[3]
水上 惟文	蓑田 眞幸[2]	宮家 隆次	村田 信一	森 篤郎	森川 裕司	山浦 浩明	山本 栄祐[2]
山本 悦夫[3]	横手 まゆみ	吉仲 崇	渡邊 譽				
株式会社熊防メタル		株式会社ニュースカイホテル		株式会社ミヤムラ		株式会社レイメイ藤井	
九州電力株式会社熊本支店		熊本防錆工業株式会社					

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人91名

化学及血清療法研究所から1億1千万円のご寄附をいただきました

平成22年5月31日(月)、一般財団法人化学及血清療法研究所(船津昭信理事長)から、熊本大学基金に1億1千万円のご寄附をいただきました。

化学及血清療法研究所は、大正15年、当時の熊本医科大学長であった山崎正董博士を理事長に、大学内に設立された「財団法人実験医学研究所」が始まりで、その後、昭和20年12月に財団法人化学及血清療法研究所が創立されて以来、熊本を拠点に生物学的製剤を中心とした医療用医薬品の研究・開発・製造・供給を通じて社会に貢献されておられます。

このたび、財団法人(公益法人)から一般財団法人への移行(平成22年4月1日付)を機に、これまで以上に地域に根ざし、地元熊本の医学振興に役立てていただきたいという趣旨から、熊本大学基金にご寄附をいただきました。



谷口学長(右)から感謝状および副賞の扁額「入神致用」を受け取られる船津理事長(左)

学生が輝くくまもと

高等教育コンソーシアム熊本

谷口 功 会長(22年4月~)

高等教育コンソーシアム熊本は、熊本県内にある大学・高専等が協力して、高等教育機関の教育・研究の充実を図ることにより、地域の行政や産業界と連携しながら、地域社会の教育・文化の向上・発展に貢献し、あわせて熊本の教育環境の向上に寄与することを目的とします。

熊本大学黒髪キャンパス 高等教育コンソーシアム熊本事務局前にて

熊本県内の高等教育機関(正会員14校)



九州看護福祉大学



九州ルーテル学院



熊本学園大学



熊本県立技術短期大学校



熊本県立大学



熊本高等専門学校



熊本大学



熊本保健科学大学



尚綱大学・尚綱大学短期大学部



崇城大学



東海大学九州キャンパス



中九州短期大学



平成音楽大学



放送大学熊本学習センター



高等教育コンソーシアム熊本

事務局 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39-1(熊本大学構内)
TEL096-342-3924 FAX096-342-3925
e-mail conso-office@jimmu.kumamoto-u.ac.jp
<http://www.consortium-kumamoto.jp/>